

19 説教批評を受けて

日本基督教団 長原教会牧師 小川 洋二

牧師：5年 説教塾：10年（含む学生説教塾） セミナー参加：6-7回（前同）

説教批評を受けて

第一印象で、口調に関する批評をされた方が5名おられた。語り口が単調であること、言葉がデクレーションしていき、語尾が聞き取りにくいことなどが指摘されました。内容の批評に入る前、もう一度導入の朗読を繰り返し語らされ、語り口の悪い癖を教えられました。実際に録音していただいた自らの説教を聴いて、早送りしているのか、と勘違いするほどに早口で、驚きを禁じ得ませんでした。自分自身が説教を聞き直したくないと感じるのも、その「不自然さ」によるのだ、ということも気づかされました。

また、自分自身ではわからない、目線や表情についても指摘されたのは、ありがたいことでした。自信のなさや悪い緊張がそこに強く表れており、不自然さ、聞きにくさを感じさせる要因になっていることがわかりました。この手の批評は、教会員からは受けることができませんから、貴重な示唆を与えられました。

内容についても、言葉の吟味を丁寧にするべきだと指摘され、「者」「この世」などの語彙が、聴き手にどう響くかを丁寧に考えるべきことも示されました。明らかに黙想不足であった結論部も、見事に批評していただきました。せっかく立ち上がった会衆を座らせてしまうような言葉は、説教者の信仰や、覚悟の不足によることを指摘されました。まことに厳しいことでしたが、向き合っていかなければならない大きな課題です。

また、人数が多かったため、批評の時間には口を開いてくださらなかった方々が、お茶の時間に、語り口の不自然さや早口を矯正するのに、絵本の朗読をしてみたら良いというアドバイスもいただきました。我慢してでも席に座り続ける教会員だけでなく、つまらなければはっきりと態度にでる低学年向けの説教で、原稿から離れること。会衆と向き合うこと。聞きやすい早さで、マイクなしで届く言葉を語ることを課題として向き合えば良い、という具体的な改善提案を示されたこと、感謝しております。